

結核は過去の病気ではありません

「結核」というと「ずっと昔に流行した病気」というイメージをお持ちの方も多いかと思いますが、実は21世紀の今も年間26,000人もの方が発症する、日本で最大級の感染症です。山梨県の罹患率（一定の期間内に新たな患者が発生した割合）は47都道府県中で42位と低いながらも（「平成28年度結核登録者情報調査年報集計結果」より）、県内で年間70名前後の方が新たに結核と診断されています。

厚生労働省では毎年9月24日から30日を「結核予防週間」と定め、結核とその予防に関する正しい知識の普及や啓発を図ることとしています。「公益財団法人結核予防会」の山梨県支部である当事業団では、9月26日に甲府駅南口で結核予防街頭キャンペーンを実施し、結核に関するパンフレットなどを配布いたしました。



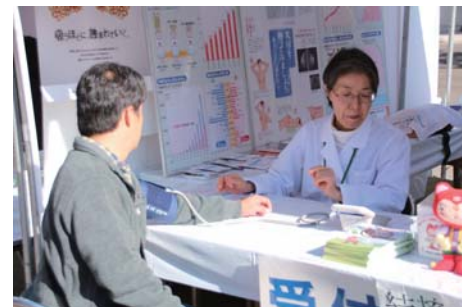
複十字シール募金キャラクター
シールぼうや

第32回県民の日記念行事に出展します

平成29年11月18日（土）・19日（日）の2日間、小瀬スポーツ公園にて「第32回県民の日記念行事」が開催されます。

当事業団も例年通り、出展させていただきます。啓発グッズの配布、乳がん視触診モデルでの体験、血圧測定、活力年齢測定も無料で実施いたします。がんに関するパネル展示もあります。また、18日に医師による「がん相談・健康相談」、19日に、ピアサポーター（がん経験者）による「がん相談」を実施します。

ご家族、ご近所お誘い合わせの上、たくさんの皆様のご来場をお待ちしております。



「9月はがん征圧月間」がん征圧街頭キャンペーン

平成29年9月13日（水）朝、JR甲府駅南口にて「がん征圧街頭キャンペーン」を行いました。県をはじめ、山梨県がん検診受診率向上プロジェクト推進企業5社（山梨中央銀行、山梨信用金庫、甲府信用金庫、山梨県民信用組合、東京海上日動火災保険）、がん経験者であるピアサポーターが参加しました。駅を利用する通勤者に「年に一度はがん検診を受けましょう」と書かれたチラシとドリップコーヒーのセットを配布し、がん検診受診を呼びかけました。



継続が 予防につながる がん検診



「リレー・フォー・ライフ 2017 甲府」が開催されました

「リレー・フォー・ライフ (RELAY FOR LIFE)」とは、がん患者さんとそのご家族を支援し、地域全体でがん向き合い、「がん征圧」をめざすイベントです。

このイベントは、1985年にひとりのアメリカ人外科医師が「がん患者は24時間がん向き合っている」というメッセージを掲げながら、思いを共有し支援を募るために競技用トラックを24時間走り続けたことが始まりでした。今日では世界27か国、約6,000か所で開催されています。2017年、日本国内では49か所で開催。ここ山梨県では甲府市内の山梨県立大学池田キャンパスで、9月1日から2日間にわたり開催されました。

当日は台風の影響もあり、夜間は雨に見舞われましたが、がん経験者とそのご家族・医療福祉関係者・協賛企業やボランティア、また地域住民の皆様など500名を超える方々にご参加いただきました。音楽・トークショーなどの多彩なパフォーマンスや各種出展、夜はがんで亡くなられた方を偲ぶ美しいルミナリエに彩られ、開会式から翌日まで、途切れることなくイベントが続けられました。

日本対がん協会山梨県支部である当健康管理事業団では、共催団体として「チームすこやか」と「チームさわやか」を結成。24時間のウォーキングへの参加と、血圧・骨密度など各種測定と健康相談、がん患者サポートセンターのPRのためブースを設けました。当事業団では、今後もがんに関する普及・啓発に努めていきたいと思っております。



がんサバイバー（がん経験者）の方々を先頭に、リレーウォークのスタートです!!



当事業団のブースにも、大勢の方々にお越しいただきました。



会場内では、色々なお店が並び、多彩なパフォーマンスが行われます。



夜間も美しいルミナリエに照らされながら、イベント会場は眠ることはありません。



一夜明け、青空のもと無事に閉会式を迎えることができました。

多くの皆様のご協力、誠にありがとうございました。
2018年もよろしくお願いたします。